



## 地域ブロック情報



日本社会福祉学会には7つの地域ブロックがあり、それぞれに特徴的な活動が展開されています。今号では、東北地域ブロックおよび関東地域ブロックの活動についてご紹介いたします。

### 東北地域ブロックから

#### 「東北地域ブロックの過去・現在・未来」

東北地域ブロック担当理事  
元村 智明(東北福祉大学)

東北地域ブロックは、青森県・岩手県・宮城県・山形県・福島県の六県によって2022年4月1日現在、266人の会員によって部会活動を行っております。なお、2022年5月29日(日)の総会を経て、6月13日(月)18時にオンラインによる部会委員会(幹事・監事会)として初顔合わせをいたしました。

東北部会では2021年度に部会60周年を迎え、前理事・都築光一先生のもと日本社会福祉学会東北部会60周年記念誌『東北の社会福祉研究』(全国コミュニティライフサポートセンター、2021年、全296頁)を刊行しました。

その記念誌刊行は、2011年12月発刊の『東北の社会福祉研究』(記念特別号)から10年を経て、また2011年3月11日の東日本大震災後の10年の歩みでもり、そこには人々の生活の営みと社会福祉の実際、そして東北の社会福祉研究の歩みを確認することができます。

本書、第1部「東北の社会福祉と研究のあゆみ」では、あらためて「東北」が問われ、「社会福祉学方法論」が論じられ、既刊の部会機関誌『東北の社会福祉研究』の内容と第6回からの研究大会の歩みが確認できます。また、第2部「東北における社会福祉の展開」では、青森県の福祉課題、岩手県の社会福祉行政、宮城県の地域支援事業、秋田県の山間過疎地域と自立高齢者の10年後、山形県の福祉施設のソーシャルワークとケアワーク、福島県の東日本大震災からの学びと地域共生社会が取り上げられました。そして第3部が論文、研究ノート、実践・調査報告が掲載された「『東北の社会福祉研究』第17号」と位置づけられました。なお本書には、これまで東北部会運営を中心的に支えていただいた5人の会員の方々から「回顧と展望」を寄稿いただきました。

東北の部会機関誌『東北の社会福祉研究』は2005年に創刊され、当時の田中尚理事は「発刊

に寄せて」で東北部会が「東北という地域のなかでの社会福祉研究の意味を模索して」いることに言及していますが、それは現在でも続く「問い」であると思います。部会機関誌は、間もなく第20号の到達を目指して、さらに部会会員諸氏によって誌面充実を図りたいという思いです。

東北部会の研究大会は、第1回大会が2001年に岩手県で開催されたことに始まり、今年は第21回研究大会を青森県立保健大学において11月23日(水・祝)に開催が予定されていますので準備が整い次第お知らせしたいと思います。

東北部会をどうぞよろしくお願いいたします。

## 関東地域ブロックから

関東地域ブロック担当理事  
後藤 広史(立教大学)

関東地域ブロックは年に1回の研究大会の開催、機関誌「社会福祉学評論」(電子ジャーナル)の発行を中心に活動を行っています。

研究大会は昨年同様、新型コロナウイルスの影響によりオンラインで行いました。「"アフターコロナ"の新しい社会福祉を拓く」を大会テーマとし、シンポジウムでは研究者と実践家の3名の方々から、現在の研究・実践の取り組みについて貴重な報告をしていただきました。自由研究報告では、5つの分科会に分かれて17演題の報告が行われました。前回のニュースレターでもふれたように、関東地域ブロックの自由研究報告は、①研究報告部門(報告30分、質疑応答20分)、②萌芽的研究報告部門(報告15分、質疑応答10分)、③実践報告部門(報告15分、質疑応答10分)という3種類の部門に分かれています。自身の研究の進捗状況やニーズに合わせてどの報告にするか選べるようになっておりますので、特に若手の研究者の皆様には積極的に報告をしていただきたいと思っています。

機関誌「社会福祉学評論」は、昨年度は例年になく多くの論文を掲載しました。体制を整え、比較的短時間に査読を行えるようになってきました。会員の皆様にはぜひ積極的に投稿をしていただきたいと思っています。なお関東部会では、機関誌「社会福祉学評論」に掲載された論文を対象に奨励賞を出す制度を設けています。過去の受賞者につきましては下記にある関東部会のHPをご覧くださいと思います。

最後に、関東地域ブロックの課題について述べておきたいと思っています。関東地域ブロックは茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、新潟県の一都八県、会員数1,613名からなる大きな部会です。これまで予算の関係から、運営や研究大会等の実施が都内中心になっていましたが、オンラインのメリットを生かしてそれ以外の地域の会員も積極的に参加できるかたちにしていきたいと思っています。また、現在、機関誌「社会福祉学評論」に掲載された最新の論文がCiNiiやGoogle scholarなどの検索でヒットしない状態になっています。せっかくの研究成果を広く知らせるために、この点については早急に対応していきたいと思っています。

会員の皆様におかれましては、関東地域ブロックの今後のよりよい活動に向けて、このほかにも要望などありましたらぜひお声を寄せていただけたらと思います。

関東地域ブロックHP <http://www.jsssw-kanto.jp/>

機関誌「社会福祉学評論」 <http://www.jsssw-kanto.jp/618.html>